

※本リリースはエヌシーイー、新潟交通、日本ユニシス、長岡技術科学大学の共同プレスリリースです。重複して配信される場合がありますことをご了承ください。

2020年11月24日
エヌシーイー株式会社
新潟交通株式会社
日本ユニシス株式会社
長岡技術科学大学

**新潟市において
新潟市住民向け MaaS アプリ「りゅーとなび」
の実証実験を 2020 年 12 月より実施いたします。**

エヌシーイー株式会社、新潟交通株式会社、日本ユニシス株式会社、長岡技術科学大学が共同し、新潟市において MaaS(Mobility as a Service)実証実験を **2020 年 12 月 1 日**から実施します。本実験では、新潟市住民向け MaaS アプリ「りゅーとなび」にて、**ルート検索機能**および**市内商業施設等で利用できるクーポン**を提供します。

本実験において、エヌシーイーが全体の統括、MaaS アプリより得られたデータの分析を行い、新潟交通がクーポンを企画、市内商業施設等との折衝、新潟市住民へのプロモーションを行い、日本ユニシスが MaaS アプリ「りゅーとなび」の開発・運用を行います。

今回の実証実験は、地域事業者の協力を得ながら、複数の移動手段や、移動目的と移動手段を統合的に利用者に提供し、利用者利便性を高めることで、地域内の移動総量を増やすことや公共交通利用への行動変容を促すことに対する効果を検証、**新潟市中心部のさらなる活性化施策の立案**に役立ててまいります。



▲新潟市住民向け MaaS アプリ「りゅーとなび」

※本実証実験は、新しいモビリティサービスの社会実装を通じた移動課題の解決および地域活性化に挑戦する地域や企業を応援するプロジェクト「スマートモビリティチャレンジ」の先進パイロット地域（経済産業省事業）として選定されております。

1. 目的

- 令和元年度に構築した仕組みを活かし、新潟市が注力している都心部の**魅力向上を狙い**とした**まちづくり**に資するデータ取得・分析・連携に取り組みたい。
- 交通事業者の採算性向上とデータ提供を促す**、データ利活用ビジネスモデルを構築したい。

2. 実証実験の実施内容

以下の項目について実施をします。詳細は別紙を参照。

- りゅーとなび

※アプリは、iOS は App Store、Android は Google Play からダウンロード可能。

- まちづくりへのデータ利活用

ユースケース①：まちづくりの効果計測

ユースケース②：まちなか周遊行動分析による連続性の高い歩行空間の検討

ユースケース③：マルチモーダルなデータの利活用

- データ利活用ビジネスモデルの構築

※詳細は、11月下旬公開予定のHP (<https://ryuto-navi.com>) で順次公開します。

以 上

※記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載の情報は、発表日現在のもので、その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

<本ニュースリリースに関するお問い合わせ>

https://www.unisys.co.jp/newsrelease_contact/

1. プロジェクトの目的

- 目的① 令和元年度に構築した仕組みを活かし、新潟市が注力している**都心部の魅力向上を狙いとしたまちづくりに資する**データ取得・分析・連携に取り組みたい。
- 目的② **交通事業者の採算性向上とデータ提供を促す**、データ利活用ビジネスモデルを構築したい。

※「りゅーとなび」導入の意義

上記の**プロジェクトの目的および MaaS アプリとしての本来の目的を踏まえ**、「りゅーとなび」導入の意義を以下に整理する。

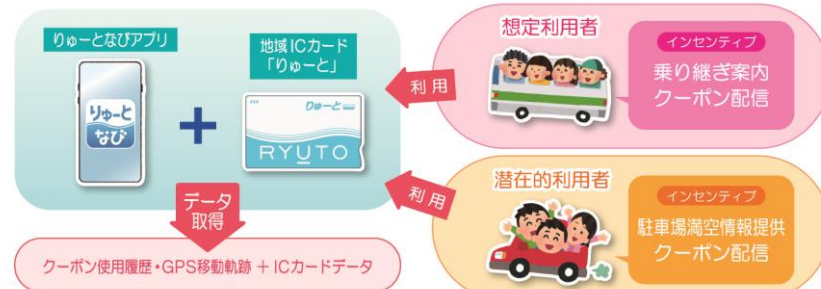
わたしたちは、「りゅーとなび」により以下の3つを実現することを目指しています。

- ①**過度な自家用車依存低減**
・「りゅーとなび」により**公共交通の利便性を向上**させ過度な自家用車依存を低減します。
- ②**まちなかの賑わい復活**
・「りゅーとなび」により**移動手段と移動目的を統合**しまちなかへのおでかけを促進するとともに、得られた**データを活かして効果的なまちづくり施策を検討**します。
- ③**持続可能な公共交通サービスの提供**
・上記①②より、**交通事業者等の採算性向上に繋げて**持続可能な公共交通サービスの提供に寄与します。

2. 実証実験の実施内容

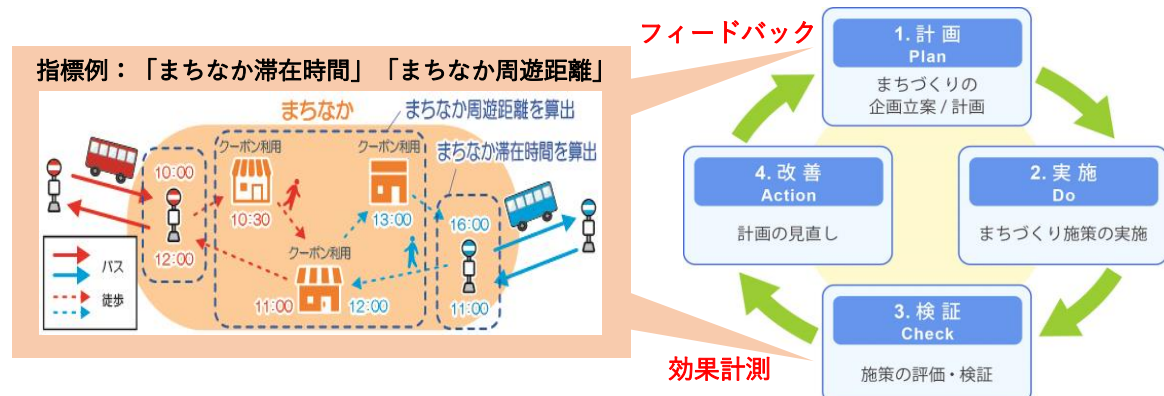
(1) りゅーとなび

- 乗り継ぎ案内 / クーポン配信 / **データ取得(クーポン使用履歴、GPS 移動軌跡) + 地域 IC カード「りゅーと」連携** ※発行枚数 20 万枚以上



(2) まちづくりへのデータ利活用【ユースケース①：まちづくりの効果計測】

- まちづくりの効果として、「まちなか滞在時間」や「まちなか周遊距離」等を**計測し、施策検討にフィードバック**。
- アンケート調査と違って**長期的・継続的にモニタリングできる**ことにメリットがあり、**長期計画で実施されるまちづくりの効果**を把握し、継続的に PDCA サイクルを回すことが可能。



(2) まちづくりへのデータ利活用

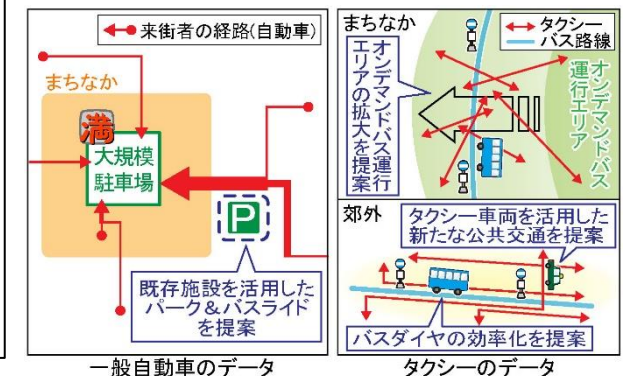
【ユースケース②：まちなか周遊行動分析による連続性の高い歩行空間の検討】

- MaaS アプリによる**まちなか移動データ** (クーポン使用履歴、GPS 移動軌跡) + IC カードデータから**周遊行動を分析**、細やかな動きを把握し**連続性の高い歩行空間を検討**。
- 新モビリティ導入**を含めた**都心軸の具体的な施策検討**が可能。



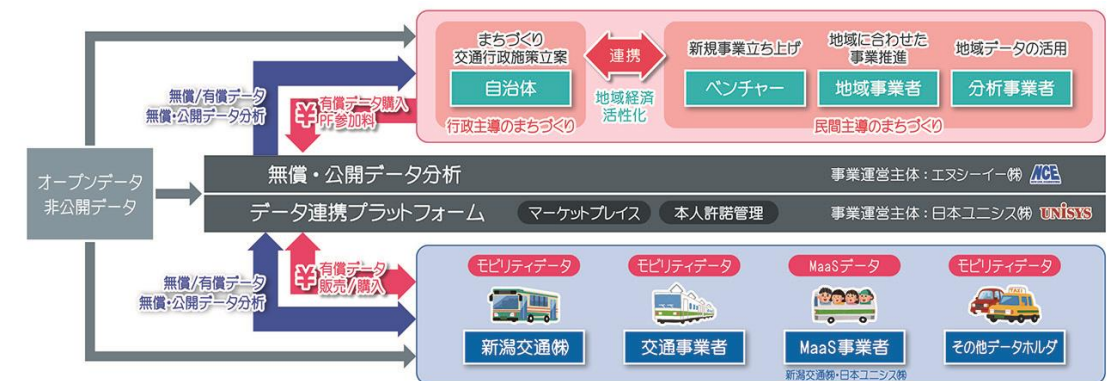
(2) まちづくりへのデータ利活用【ユースケース③：マルチモーダルなデータの利活用】

- 1) 一般自動車のデータ(プローブ、駐車場満空)
○**駐車場の満車時間帯**について、来街者の**OD・経路を分析**、パーク&バスライド等のより**効率的な都心部アクセス方法等の施策検討**が可能。
- 2) タクシーのデータ(タクシープローブ)
○ IC カードデータと重ねて分析することで、オンデマンドバスのエリア拡大など**バスとタクシーの棲み分けの具体的な施策検討**が可能。



(3) データ利活用ビジネスモデルの構築

- まちなか移動データをビジネスに活かす**ための方策検討 / **各種データ提供を促す**ための方策 (経営判断材料) 検討 → 「データ使用料等の**直接収入**」や「まちなかの活性化による本来事業の収入増加等の**間接収入**」を認識することで合意形成が図られるものとする。



※将来的にはモビリティ以外のデータホルダも参画する地域事業者全体のデータ連携PFを目指す。

3. スケジュール (予定)

実験開始：2020年12月1日(火)
 実験終了：2021年2月28日(日) } 実験期間 約3か月